

第1学年 生活科学習指導案

授業者 1組32名 主任教諭 佐藤 郁佳
2組31名 教諭 藤井 美歩

1 単元名 『きせつとなかよし あき』

2 単元の目標

秋の自然を諸感覚を使って観察したり、自然物を使って遊んだりする活動を通して、秋の特徴や他の季節との違いを見付け、それらで遊ぶ方法を考えたり、遊びを楽しく工夫したりする。また、自然や生活の様子の変化、自然のおもしろさや不思議さ、野原や公園のルールやマナーを守って遊ぶことなどについて気付き、季節の遊びや生活を楽しく創り出すことができる。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
秋の自然の中で遊んだり自然物を使って遊んだりする活動を通して、自然の様子や季節の変化、季節によって生活の様子が変わること、自然遊びのおもしろさや自然の不思議さ、野原や公園のルールやマナーを守って遊ぶことに気付いている。	秋の自然の中で遊んだり自然物を使って遊んだりする活動を通して、秋の特徴や他の季節との違いや特徴を見付け、遊びや遊びに使うものを工夫してつくっている。	秋の自然の中で遊んだり自然物を使って遊んだりする活動を通して、季節を生活に取り入れ、みんなと遊びを創り出そうとしている。

4 単元について

(1) 学習指導要領との関連

本単元は、学習指導要領生活科の目標及び内容を受けて設定した。

学習指導要領生活科の目標

具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けられるようにする。
- (2) 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにする。
- (3) 身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしようとする態度を養う。

内容

- (5) 身近な自然を観察したり、季節や地域の行事に関わったりするなどの活動を通して、それらの違

いや特徴を見付けることができ、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わることに気付くとともに、それらを取り入れ自分の生活を楽しくしようとする。

- (6) 身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、遊びに使う物を工夫してつくることができ、その面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする。

(2) 指導計画と教材について

本単元を通じて、児童が汐入公園でのネイチャーゲームでの活動により、季節の変化を感じ取り、思う存分友達や同一施設内に併設する汐入こども園の園児と一緒に遊んだり、遊びが楽しくなるように工夫したりできるようにしたい。

1学期は、『はるをみつけに いこう』での草花遊び、『なつを かんじよう』での水鉄砲とシャボン玉遊びを行った。水鉄砲とシャボン玉は、汐入こども園との交流を通して園児と共に楽しむことができた。そのときの経験を生かしながら、「汐入こども園の子たちともっと楽しく遊ぶにはどうしたらよいか」を考えて自分なりの工夫を見付け、児童の気付き・思いや願いを大切にしながら単元を展開していった。このような活動を通して、日常生活の中にも季節の変化を取り入れ、自分の生活を楽しんだり、みんなと楽しみながら遊びを作り出そうとしたりする教材である。

4・5時間目では、園児たちと合同で東白髭公園に行き、落ち葉や木の実を探し、簡単な遊びを考えて遊ぶ活動を行う。活動を通して、木の実には大きさや形に違いがあることや、木によって葉の形が違うことに気付かせる。

8・9・10時間目では、「みつけた あきで つくろう」という活動の中で、落ち葉や木の実を使って、工夫してできる遊びについて考えていく。友達と関わり合いながらおもちゃをつくることで、作り方や遊び方の工夫を凝らしたり、自分たちの遊びをよりよくできるように試行錯誤したりすることができる。また、遊びの中で、自然に児童が自らの気付きを振り返ったり、互いの気付きを交流したりすることができるようにする。

13・14時間目では、「あきのたからものランド」に汐入こども園の園児を招待して遊ぶという目的で活動をする。遊び方や言葉遣いの工夫を考えられるよさがある。児童は小学校に入学後、上級生にお世話をしてもらった経験を思い出して、今度は年下の園児とどのように関わり合えばよいのかを考えたり、すすんでお世話をしたり喜びを味わわせることができる。

5 児童の実態

本学年の児童は、これまで「きせつとなかよし はる・なつ」の単元で、季節の変化を捉え、季節に合った遊びを計画してきた。また、継続した汐入こども園との交流にも意欲的である。これまで行ってきた園児と一緒に遊ぶという活動から、本単元では園児を招待するという活動へ変化させ、他者意識を育んでいく。

6 研究主題に迫る手だて

本校が考える生活科で目指す「深い学び」の姿

体験から得た感動や気づきが学習や生活の中で生かされ、学ぶことのよさに気付くとともに、自分自身のよさを見付けようとする児童。

本単元で目指す子どもの姿

家庭や地域でも、季節を生活に取り入れ、みんなと遊びを作り出そうとしている。

(1) 地域資源の活用

①地域を生かした具体的な活動や体験活動

汐入公園という身近な地域を生かして、春、夏、秋と移り変わる季節を実感できるような体験をさせ、季節の変化を捉えやすくする。春に花探し、夏に水鉄砲やシャボン玉遊びなど、季節に合わせた活動を取り入れることで、体験を通して自然の特徴や違い、よさを実感できるようにする。

②ゲストティーチャーの活用

自然観察のプロであるゲストティーチャーを迎え、ネイチャーゲームを行う。観察や自然物を使った遊びを通して自然のおもしろさに触れ、自然や季節の変化への興味・関心を高めたり、疑問を解決したりすることにより、理解を深められるようにする。

③汐入こども園との交流

自分たちが楽しんだおもちゃを使って、汐入こども園の園児に遊んでもらう活動を設定することで、相手意識をもって活動ができるようにする。今までの年齢が上の人に面倒を見てもらったり、遊んでもらったりした経験を生かして、今回は、自分たちが年齢が上の立場として接する学習をすることで、相手に分かりやすく、楽しく遊んでもらうためにどうすればよいのかを考え、相手意識をもって遊び方を工夫できるようにする。授業の終末には、めあてを「自分たちがより楽しむため」というめあてから、「園児に楽しんでもらうため」という他者に向けた視点に変えることで、身近な人々との関わりにも気付くことができるようにする。

(2) 単元構成の工夫

①児童の思いや願いを大切にしたい計画

季節のイメージを膨らませ、その際に児童から出てきた「〇〇したい」の言葉から、計画を立てる。例えば、「汐入こども園の子たちとどんぐりを使ったおもちゃで一緒に遊びたい」といった児童の思いや願いを大切に「あきのたからものランド」を実現させていく。

②段階的な遊び

まずは、自分で秋の自然物でのおもちゃ作りや遊びを楽しみ、満足感や達成感を得た後に、その楽しさを伝えたり友達を楽しませたりするための工夫を考える、という段階を踏まえた指導計画を立てる。個人で落ち葉や木の実の素材の特徴を十分につかんだ上で、他者に遊びの工夫を伝えさせたい。

(3) 思考を深めたり、広げたりする活動

①学習計画や学習内容の掲示

見通しをもって活動に取り組めるよう、児童から出てきたイメージや言葉、そこから立てた計

画も併せて掲示を行う。また、前時までの活動を掲示したり、次時の活動につながるような写真、図書資料などの掲示を行う。

②振り返りの充実

自分のできたことを実感し、次時へつなげられるよう振り返りを行う。1年生の発達の段階を踏まえ、全校共通の振り返りシートを基に、挙手やワークシートで必要に応じて振り返りをさせる。また、教師は児童の振り返りに対して、コメントを送ることで、意欲や有用感を得られるようにし、学習の気付きを次時の活動へとつなげられるようにしていく。

7 指導と評価の計画（15時間）

時	○主な学習活動 ・内容	◆【評価規準】（評価方法）※資料 ☆研究主題に迫る手だて
1	あきについて しっていることを つたえあおう ○秋について知っていることを伝え合う。 ・生活の中で見付けた秋やイメージを発表する。 【たんげんのめあて】 あきと なかよしになろう ○秋と仲良くなるための方法を考える。 ・みんなでしたい活動を話し合い、次時への見通しをもつ。	◆【知】 夏から秋へ自然の様子の変化に気付いている。（発言） ※「しょくぶつはかせ」（図鑑） ☆（2）単元構成の工夫①
2 3	しおいくこうえんで ネイチャーゲームをしよう ○秋の草花や樹木などを観察し、季節の変化に気付く。 ○汐入公園には、木の実があまり落ちていないことに気づき、別の公園に行く計画を立てる。	◆【知】 秋の野原や公園の様子が変わっていることに気付いている。（ワークシート、行動観察） ※「しょくぶつはかせ」 「こんちゅうはかせ」（図鑑） ☆（1）地域資源の活用①・②
4 5	こどもえんのこたちと あきを みつけにいこう ○東白鬚公園で秋探しをする。 ・いろいろな形の落ち葉や木の実、様々な色の落ち葉などを集める。 ○秋の草花や樹木などを観察し、季節の変化に気付く。	◆【主】 秋の草花や樹木、虫などに関心をもち、それらを観察したり、木の実などを集めたりしようとしている。（行動観察） ※「しょくぶつはかせ」（図鑑） ☆（1）地域資源の活用③
6	なにを かんじたかな	◆【思】 木の実や葉の特徴や不思議さを

	○秋の公園や野原でした体験や集めた木の実や木の葉などについて伝えたり調べたりする。 ・活動したことの楽しさや、見つけた秋のことなどを、カードに絵や文で表現する。 ・気付いたことや感じたことを伝え合う。 ○これからどんなことをしていきたいかを発表し、クラス全体で話し合う。	伝えたり表現したりしている。 (発言、ワークシート) ◆【主】 秋を楽しむ遊びに向けて、計画を立てようとしている。(行動観察) ※「しょくぶつはかせ」(図鑑) ☆(2) 単元構成の工夫①
7	みつけた あきで あそぼう ○集めた木の実や葉の特性を生かして、簡単な遊びを楽しむ。 ・素材遊びをし、感じたことや気付いたことを伝え合う。 ・振り返りを行い、次にやりたいことを考える。	◆【知】 秋の自然物の特徴や、自然を使って遊びを作り出すおもしろさに気付いている。(発言、行動観察) ◆【思】 秋の自然物の特徴を生かしてどんな遊びができるのかを考えながら、遊びを試している。(行動観察) ☆(2) 単元構成の工夫②
8 (1年2組 本時) 9 10	みつけた あきで つくろう ○作りたいものを考え、活動への見通しをもつ。 ○集めた木の実や葉を使って、おもちゃを作って遊ぶ。 ・おもちゃを工夫しながら作る。 ・作ったもので友達と一緒に遊び、遊び方を工夫したりおもちゃを改良したりする。 ○活動を振り返り、楽しかったことや気付いたことを絵や文で表現する。	◆【思】 おもちゃの動きを試したり、友達のおもちゃと比べたりしながら、繰り返し遊んでいる。(行動観察) ◆【主】 みんなで楽しく遊ぶために遊びの工夫を伝え合い、遊びをよりよくしようとしている。(製作物、行動観察) ※工作の本 ☆(2) 単元構成の工夫② ☆(3) 思考を深めたり、広げたりする活動①・②
11 12	あきの たのしさを つたえよう ○「あきのたからものランド」の準備をする。 ・「あきのたからものランド」の計画を立て、招待するため	◆【知】 招待したい人に応じた伝え方があることに気付いている。(発言、行動観察)

	に必要なものを作ったり準備したりする。 ・遊び方やルールをグループで話し合ったり、試しに遊んでみたりして工夫する。 ・ポスターや招待状を作って渡す。	◆【思】 これまで園児と接したことを思い起こして、計画を立てたり練習したりしようとしている。(発言、行動観察) ☆（２）単元構成の工夫②
13 (1年1組 本時) 14	みんなで あきを たのしもう ○「あきのたからものランド」を行う。 ・園児を出迎え、挨拶をしたり、「あきのたからものランド」コーナーやルールなどについて説明したりする。 ・「あきのたからものランド」を園児と一緒に楽しむ。 ・活動を振り返り、楽しかったことやうれしかったことを、絵や文で表現し、友達と伝え合う。	◆【思】 招待した人に楽しんでもらえるように関わったり、楽しんでもらう方法を考えたりしている。(発言、行動観察) ◆【主】 おもちゃの楽しさを伝えたいという思いをもち、すすんで触れ合い交流をしようとしている。(発言、行動観察) ☆（１）地域資源の活用③
15	なにを かんじたかな ○記入したカードやノート、写真などを基に、今までの活動を振り返る。 ・感じたことや考えたことをカードに記入する。 ・友達と伝え合い、感じたことや気付いたことを発表する。	◆【主】 秋と自分たちの生活が、身近な自然の季節の変化に関わっていることや、みんなで遊ぶ楽しさを実感し、毎日の生活を豊かに楽しくしようとしている。(ワークシート) ☆（３）思考を深めたり、広げたりする活動②

8—1 本時の学習（8/15）〔1年2組〕

（1）目標

集めた木の実や落ち葉を使った遊びを思い描きながら、遊びに使うものを選び、おもちゃを工夫してつくることができる。

（2）本時の展開

時間	○主な学習活動 ・内容 C：予想される児童の反応	□指導上の留意点 ◆【評価規準】（評価方法） ※資料 ☆研究主題に迫る手だて
3分	○前時を振り返る。 C：秋の遊びのおもちゃを作りたい。 C：みんなで遊びたい。 ○本時のめあてを知る。	☆（3）思考を深めたり、広げたりする活動① □学習のつながりを感じられるよう、前時の学習を基に振り返る。 □前時からの意欲をつなぐために、前時に児童から出たつぶやきを想起させる。
	みつけた あきで つくろう	
37分	○学習の流れを確認し、作ったおもちゃの工夫する点を話し合う。 ・材料や作り方の工夫 ・秋のものをなるべくたくさん使う。 C：いろんな種類のどんぐりを使って、いろんな形のこまを作りたい。 C：集めた落ち葉で魚を作って「おちばさかなつり」をしたい。 ○グループで協力して各自でおもちゃを作る。 作るおもちゃの例 ・こま ・けんだま ・やじろべえ ・めいろ ・おちばのえ ・おちばさかなつり C：すごいおもちゃを作って驚かせたい。 C：らいおん組さんが楽しめるようにするためにはどうしたらいいかな。 ○作ったおもちゃを見合う。 ・自由に歩いて見合う。 C：どんぐりで付けた模様がきれい。らいおん組さんに喜んでもらえそうな見た目になっている。	□作って試して気付いたことも大切にできるように、他にも工夫できそうなことがあればしても良いことを伝える。 □材料置き場を作り、好きな物を選べるようにする。様々な大きさや形から素材を選ぶことができるよう、種類ごとに並べる。 □おもちゃを作って試す際に、飽きずに遊べそうか考えながら作らせる。 ☆（2）単元構成の工夫② □作りたい物にあった遊びの本を精選し、手元に置いて考えられるようにする。 ◆【思】 おもちゃの動きを試したり、友達のおもちゃと比べたりしながら、繰り返し遊んでいる。（制作物、行動観察） <支援を要する児童への手だて> 図書資料の作り方や見本を繰り返し提示したり、助言したりする。道具の扱いが難しい児童と一緒に作成する。

	C：このおもちゃはどうやって遊ぶのかな。遊んでみたい。	※おもちゃの作り方が書いてある図書資料 □やってみたい、すごいと思うおもちゃを見付けるよう声を掛ける。
5分	○本時の振り返りを行う。 C：らいおん組さんが喜ぶように、たくさんのどんぐりを使って、模様を付けた。 C：らいおん組さんが遊びやすいように、おもちゃのルールを工夫した。 ○次時の活動を聞く。 ・らいおん組さんが遊ぶ前に自分たちで遊んでみて試すことを伝える。 C：○○さんのおもちゃでも遊んでみたい。 C：もっとらいおん組さんが楽しめるような工夫を友達と考えたい。	□「らいおんぐみさんが喜びそうか」「らいおんぐみさんがあきずに楽しめそうか」の2点を振り返らせる。 ☆（3）思考を深めたり、広げたりする活動② □作ってみて感じたことや友達のおもちゃを見て感じたことを聞き、次時への意欲を高める。

（3）板書計画

きせつとなかよし あき

めあて みつけた あきで つくろう

①ざいりょうを えらぶ

②かあどをみて、グループで きょうりょくして つくる。

ためす → つくる → ためす…

もっとこうしたい！をかんがえよう😊

③かたづけ

④みるじかん

⑤ふりかえり

ざいりょう えらびの くふう

つくるときの くふう

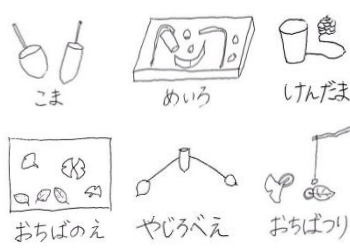
たくさん あきの ものを つかおう！

8—2 本時の学習（13/15）[1年1組]

（1）目標

園児と適切に関わって遊び、伝えたいことが相手に伝わるよさや楽しさが分かり、一緒に楽しく遊びたいという願いをもち、すすんで触れ合い交流することができるようにする。

（2）本時の展開

時間	○主な学習活動 ・内容 C予想される児童の反応	□指導上の留意点 ◆【評価規準】（評価方法） ☆研究主題に迫る手だて
5分	みんなで あきを たのしもう ○「はじまりの会」を行う。 ・園児を出迎え、挨拶をしたり、「あきのたからものランド」コーナーやルールについて説明をしたりする。	□進行は司会の児童に任せながら、必要に応じて支援をする。
30分	○「あきのたからものランド」を開く。 ・おもちゃを作ったグループごとに、ブースを作る。 ・園児は行きたいところに行く。 ・園児に遊び方を説明し、一緒に遊ぶ。 C：○○は楽しいよ。一緒に遊ぼう。 C：○○はこうやって遊ぶんだよ。 C：（園児に対して）上手にできているね。 おもちゃの例 	□お店屋さんのような形式をとることで、招待者であることを意識させ、年少者への接し方を考えて対応することを学べるようにする。 □園児が1ヶ所に偏らないよう、声を掛けて誘導する。また、色々なお店に回れるよう、スタンプラリー形式にする。 ☆（1）地域資源の活用③ □こども園の児童との交流を通して、他者視線を育む。 ◆【思】招待した人に楽しんでもらえるように関わったり、楽しんでもらう方法を考えたりしている。（行動観察） <支援を要する児童への手だて> 園児への声の掛け方や関わり方を具体的に助言する。意図的に園児を誘導し、関わりをもてるようにする。
10分	○「おわりの会」を行う。 ・終わりの挨拶をし、園児を見送る。 ○感想を発表し、振り返りをする。 C：秋の遊びができて楽しかった。 C：こども園の子が楽しんできてよかった。 C：わかりやすく説明できた。 C：今度は冬の遊びも一緒にやりたい。	□始まり同様、進行は児童に任せ、必要に応じて支援をする。 □園児と交流した楽しさや相手に合わせた工夫、次の活動への期待感に言及している感想等、全体に意識付けたい内容の感想については、全体に投げ掛け、挙手で振り返りをさせる。

(3) 板書計画

きせつとなかよし あき

めあて みんなで あきを たのしもう

プログラム

- ① はじめのことば
- ② せつめい
- ③ みんなであそぼう
- ④ おわりのことば